

第52回夏季大学「浸水・洪水予測と気象防災の最前線」開講のお知らせ

教育と普及委員会

主催：(公社) 日本気象学会
後援 (予定)：気象庁, 日本地学教育学会, (一財) 気象業務支援センター, (一社) 日本気象予報士会

日本気象学会教育と普及委員会は、最新の気象学の知識の普及を目的として、学生・大学院生、小・中・高等学校の教諭、気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に、毎年夏休みの時期にやや専門性の高い講座である「夏季大学」を開講しています。

今回の夏季大学のテーマは「浸水・洪水予測と気象防災の最前線」です。平成27年9月関東・東北豪雨や平成28年の台風第10号に伴う大雨、更には平成29年7月九州北部豪雨等により、浸水や河川の氾濫等を伴い広範囲に甚大な被害を及ぼす災害が相次いでいます。一方で、水文気象学や水工学といった分野の研究の発展により、気象防災への取り組みも推進されています。このような背景から、今回の夏季大学では「水」をキーワードとして、近年の最先端の研究による科学的知見や浸水・洪水予測を基にした気象防災に関する幅広い内容について、専門家の皆様から講義を行っていただく企画にしました。

○日程、講義題目(仮題)、講師

2018年8月4日(土)

- 09:40 開講
09:45-10:00 「講師紹介と夏季大学の概要紹介」
10:00-11:00 「東京で発生する大規模浸水・都市河川洪水とそのリアルタイム予測」
関根正人(早稲田大学)
11:10-12:10 「河川・ダムの管理と洪水予測」
小宮秀樹(国土交通省関東地方整備局)
13:10-14:10 「気象庁が提供する大雨・洪水警報の危険度分布」
太田琢磨(気象庁)
14:20-15:20 「気象情報の効果的な活用について」
高橋賢一(気象庁)

2018年8月5日(日)

- 10:00-11:00 「東京都の河川における洪水対策」
小木曾正隆(東京都)

11:10-12:10 「気象レーダーを用いたゲリラ豪雨の早期探知と危険性予測」

中北英一(京都大学)

13:10-14:10 「NHKの災害報道最前線」

橋爪尚泰(NHK)

14:20-15:20 「学習到達度試験(クイズ形式)」

※講義題目・講義時間は変更となる可能性があります。

○講義会場

気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)
会場の地図は、気象庁ウェブサイト
(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/map.html>) をご覧ください。

○募集対象人数

定員100名程度

○受講料(消費税含む)

5,000円(学生3,000円)

参加申込受付後、郵便口座をお知らせしますので、そちらに受講料の振込みをお願いします。

○講義資料

受講者の方には、事前に講義レジュメをオンライン配布します。また、開催後に、講義まとめ録を「教育と普及委員会」ウェブサイトに掲載する予定です。同サイトには、過去の資料が公開されていますので、ご覧ください。

○参加申込方法

ウェブ・フォームによるオンライン受付を原則とさせていただきます。詳細は、「教育と普及委員会」夏季大学ウェブサイト(http://www.metsoc.jp/about/educational_activities/summer_school) をご覧ください。インターネットへの接続環境をお持ちでない方は、下記事務局の連絡先までお問い合わせ下さい。

○参加申込開始日

2018年6月18日(月)

定員になり次第、締め切らせていただきます。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局
Tel: 03-3216-4403, Fax: 03-3216-4401